

(参考) 『鎌倉国宝館百年史(仮)』章立て案

『百年史』章立てにつき、現時点での素案である。割付などの参考とすること。なお、編集過程で変更の可能性があるため、随時発注者と受注者で共有をはかること。

B5	章・節 ほか	内容
2	外表紙	背文字(タイトル・編者)
2	遊び紙	
2	内表紙	題字(タイトルのみ)
12	巻頭口絵 (モノ・カラー)	外観(開館当時&最新)、展示風景、館資料、展覧会資料、内装 (記念事業で変わった点)ほか
2	巻頭辞①	市長 or 教育長名(仮・鎌倉国宝館100周年によせて)
2	巻頭辞②	館長名(仮・百年史発刊によせて)
3	目次	
1	凡例	
2	扉題	
2	はじめに	震災から100周年の概観 『40年略史』以後 本書のねらい
12	序章 鎌倉国宝館 創立前夜	・関東大震災 発生 ・被害状況(データ&仏像等古写真) ・修理所の活動・展開
2	一章 鎌倉国宝館 開館	扉題
14	一節 設立に向けて	・同人会と各界の動向(設立嘆願) ・各界からの建設費寄附(資金面) ・建造(建物) ・文化財の寄贈・寄託(展示品)
8	二節 町立鎌倉国宝館の開館	・組織(荒川館長、相沢主事ほか仕丁など) ・開館当初の展示風景 ・経営状況(間島遺産の寄附)
8	三節(開館初期の運営)	・国宝修理・修理所機能の展開 ・勸告出品
2	二章 戦時下	扉題
14	一節 戦意高揚展示	・展示開催の機運 ・元寇展・刀剣展 ほか
14	二節 宝物の返戻と疎開	・近年の研究動向もふまえて
6	三節 戦後の再収蔵と活動再開	
2	三章(戦後～現在)	扉題 (*ポスト『40年略史』。論点検討中)
14	一節(文化財調査)	・経済成長期の開発と考古遺物の展示増加 ・鎌倉史勃興期の国宝館の役割 ・寄託品傾向の変容

14	二節 (展示関係)	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵品展中心から借用展示へ ・メルクマールとなるような展示の紹介 (古都名宝百華撰、世界遺産展、北条氏展レベルの) ・ポスター動向 <p>* 展示一覧などは巻末附録</p>
14	三節 (館の機能の展開)	<ul style="list-style-type: none"> ・新館 (収蔵庫) 建設、館機能強化 ・博物館協会との関係 ・社会的役割 (教育普及、講座・WS、広報活動、ほか) ・交流館開館による連携・機能分化
2	終章 百周年とその先へ	扉題
6	一節 (事業以前の課題、老朽化問題)	<ul style="list-style-type: none"> * 二節 or 三節に接続する内容 ・本館建設以降の改修、新館の建設および以降の改修 ・デジタル化の遅延 他
14	二節 百周年事業	<ul style="list-style-type: none"> ・展示場・収蔵庫 修繕 (館機能強化) ・導入路・トイレほか 施設改修 (美化) ・年史事業 (館史編纂・資料整理) ・HP・記念動画・アーカイブ類 (デジタル化・公開事業) ・記念特別展
6	三節 (これからの課題と館が果たすべき役割)	
4	おわりに	<ul style="list-style-type: none"> ・年史編纂の歩み ・編集後記 ・謝辞
30	附録	<ul style="list-style-type: none"> ・歴代館長・学芸員 ・展覧会一覧 (題・会期・入館者数 他) ・刊行物一覧 ・略年表
2	奥付・裏見返	
214	(本文頁計)	
218	(総頁計)	